

2012年1月23日(水)に本学客員教授である株式会社ジェーティービー代表取締役社長 田川博己氏による、学内限定の追加講義が開催されました。今回はこれまでの公開講座とは異なり、前半は田川氏による講義「震災復興に向けたツーリズム産業の動向」、後半は国際学部長・山口一美教授との対談形式による Q&A、と、二部構成で行われました。



前半の講義では震災によって困難に直面した観光産業が訪日外国人旅行者をいかに取り戻すのか、また JTB をはじめとした旅行業界による観光を通じた被災地復興のための支援策についてお話いただきました。

日本は 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けました。その影響は広い経済波及効果を持った観光産業にも及びました。震災直後、観光関連施設、交通のインフラの震災被害による影響のみならず、自粛風潮や風評被害により訪日外国人旅行者数が大幅に落ち込みました。しかし、今回の震災においてはソーシャルネットワークシステムなどの ICT メディアが新しい情報流通手段として活用され、復旧への役割を担いました。ICT メディアを用いた被災地からの呼びかけによる自粛風潮の払拭、また積極的な消費により日本経済を支え、被災地支援につなげようというムードが醸成されました。こうした動きから現在外国人観光客数も回復傾向にあります。観光分野では、正確な情報の発信や旅行促進の喚起策が引き続き求められており、旅行の需要を回復・促進させるこ

とで、地域を活性化させようとする動きがみられます。

また今回の震災では、日本の強みであった「安心」「安全」のイメージが崩れたことによって、安定した暮らしへの願いや周囲との絆づくり、社会貢献への意欲など新しい価値観が生み出されました。**JTB** では、観光を通して被災地の復興を支援するボランティアツーリズムを実施しています。現地でのボランティアとしての復興貢献、現地の施設を利用することによっての地域経済への貢献、そして身近な人たちに被災地の現状を語ることで、クチコミによる情報伝達に貢献できます。このように **JTB** をはじめとする観光業界では旅行を通じた復興支援を行っており、東北全体における旅行需要の喚起が期待されます。

2012 年 4 月には、世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)の日本での開催が決定しており、海外メディアからの注目が集まると予想されます。今後の展望として、国内外の旅行者数の増加が見込まれるでしょう。

後半の **Q&A** では学生からの質問に田川社長が 1 つ 1 つ丁寧に答えてくださいました。これからのツーリズム産業に求められる人財に関する質問では、柔軟な発想力や物語の構想力を持った人が求められ、これらを養う観察力と新しいマーケットを開拓できる開拓力が重要であるというお答えをいただきました。

私たちが社会で求められる人材になるために学生のうちからできることは、集中力を養い、チームで働く能力を身につけることです。日々意識を高めることで、自分の能力や感性を向上させていきたいと思いました。

記者・湯本紗矢香(文教大学国際学部国際観光学科・観光研究会)